

**なし黒星病の発生ほ場率が高く推移しています。
黒星病の発生増加に注意して下さい。**

当センターの巡回調査（7月上旬実施）の結果、なし黒星病の発生ほ場率は85.7%（平年36.8%）、発病葉率は1.3%（平年0.9%）であり、平年に比べ発生が多く見られます（図1、図2）。気象予報（7月6日発表）では、向こう2週間は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みで、今後の発生増加が懸念されます。

園内を良く観察し、発病部位の除去を徹底するとともに、発生が多い園では、薬剤散布間隔に注意しながら治療効果が期待できる薬剤を散布しましょう。

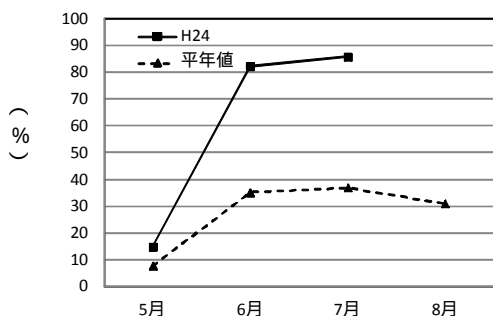


図1 黒星病発生ほ場率の推移

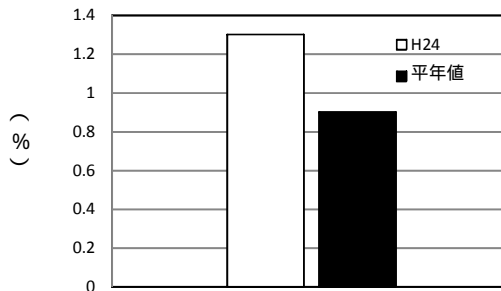


図2 黒星病発病葉率(7月)

【防除対策】

- (1) 発病した葉や果実は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除してほ場外に持ち出し、埋却等により適切に処分する。
- (2) 現在、発生が多いほ場では、治療効果が期待できるストロビードライフフロアブル、アフェットフロアブル等を追加して散布する（表1）。
- (3) 薬剤散布にあたっては、防除の遅れ、感染拡大を防ぐため、わずかな晴れ間、小雨でも薬剤散布を実施する。
- (4) 黒星病は感染から発病までに15日程度の潜伏期間があるため、発病した葉や果実が見つからない場合でも、ほ場内をよく観察し、発生密度が高くなるよう発生初期の防除に努める。
- (5) 幸水は、果実肥大後期の7月上旬から黒星病の感受性が高くなるため、特に注意が必要である。

表1 なし黒星病に登録のある主な防除薬剤（平成24年7月6日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ストロビードライフフロアブル	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ナリアWDG	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ベルコートフロアブル	1,500倍	収穫14日前まで / 5回以内 ¹
オキシラン水和剤	500～600倍	収穫3日前まで / 9回以内 ²
キノドーフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで / 9回以内 ²

注1) 必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

1 イミノクタジン（ベルコートの成分）の使用にあたっては、塗布剤は2回以内、液剤は1回以内とする。

2 オキシラン水和剤とキノドーフロアブルは有効成分として有機銅を含むため両薬剤の使用回数は合わせて9回以内とする。

注2) 薬剤散布にあたっては、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

注3) 発生が多く、間隔をつめて薬剤散布する場合は、近接散布による薬害発生に十分注意する。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。

また、当センター携帯サイト（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>）もご利用下さい。

（ 0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6 ）